



あさぎ

議会だより

増刊号
H24.3.1発行



第8回あさぎ町ひなまつり (ポツポ一館)

松下祐子さんを実行委員長とする7人のメンバーで飾り付けをされた、あさぎ町ひなまつりが2月19日から3月11日の22日間、午前9時から午後9時までポツポ一館で開催されます。春ももう間近かです。

アンテナショップ出店決まる…2～3P
環境資材等支給条例を制定……4P
口蹄疫対策を研修(えびの市役所)…5P
重要案件を可決……………6P

アンテナショップ出店決まる

ふるさと振興社へ開設委託料630万円

審議内容の抜粋

問 3年間で3千数百万の経費が必要な事業が果たして適当なのか。こういう事は球磨人吉全体でふるさと市町村圏基金を使ってもやるべきだと思うが。

答 今後町の活性化に資する投資的な意味もある資金と考える。町村会での懇談会程度の話では、まずやってみてくれという話しはあっているので、必要なものは連携しながらやっていく。

問 アンテナショップには、JAや南稜高校も一緒に取り組まれるとの事だが、現地視察等具体的には進んでいるのか。

答 この事業が決定していない段階では現地案内は出来なかった。JA、南稜高校とも一緒にやるうという話はしているので、決定したら現地案内をしたい。

問 アンテナショップの目的に、ふるさと振興社の自立という話もあるが、具体的な考えは。

答 現在、年間で約500万円の一般会計からの持ち出しがあっている。アンテナショップや

インターネット販売の機能をふるさと振興社に集約して、一定の売り上げがあれば現在の持ち出し分ぐらいは補填できるのので、自立の可能性ができる。

問 現在、ふるさと振興社と農林商工連携の中に数人の臨時雇用がおられるが、アンテナショップをする事でその方々はどのような形になるのか。

答 現在、それぞれ合計8人雇用している。今年からのアンテナショップ事業で、県に5人の緊急雇用を申請している。アンテナショップをフォローする形でできるだけ雇用は続ける形で検討している。



アンテナショップ出店が決まった大乾さんの店舗

問 ふるさと振興社が主体となるこの事だが、商工会やJA、製材業界、南稜高校、農林商工連携協議会との連携の仕組みはどうなるのか。

答 行政が支援をしていくが、それぞれの団体との関係のあり方は、それぞれ提言をいただいでいるので、一緒にアンテナショップと全体的な特産品関係がスムーズにいくように、正式に組織立てをしていきたい。

問 アンテナショップの設置とふるさと振興社の経営改善は別に考えるべきではないか。要は、あさぎりブランドの構築と新規の販売開拓の拠点づくりが大前提と思うが。

答 目的の1番目は、町全体の産業活性化。2番目にブランドを立ち上げてあさぎり町の特産品をどんどん成熟し、結果としてふるさと振興社も経営の改善ができればと考えている。



アンテナショップ出店予定地

問 町の各種商品の販路拡大が商工業の活性化につながると思う。アンテナショップはその一つの手段とは思いますが、他の手段は検討比較されたのか。

答 アンテナショップ販売、催事販売、インターネット販売まで、農林商工連携で取り組むべき範囲と考えるが、どれが良い悪いは検討していない。

問 アンテナショップの予定地は、博多の中で大商業施設があり、それぞれが熾烈な集客合戦が繰り返しているが、予定地はその狭間ではないのか。また買物客の動線はどうなっているのか。

答 予定地の裏にサンロードという通りがあり、近くには柳橋連合市場という海の幸の商店街があるし、九電ビルや病院も近くにある。色々な施設を利用されるお客をターゲットに考えている。

討論の要旨

反対討論

4坪の面積に、牛肉、焼酎、木工品、米、このようなことがやれるのかどうか。マーケティングサーチをやっていない割に1日の集客数が最初は80人、最後の平成26年度の1カ月からは300人、これが信憑性があるかどうか。将来歳入不足を考

えるとき、このような施策をとっていいのか。この補正予算案には反対。
※マーケティングサーチ市場調査

賛成討論

町の資源と個性を活かした推奨商品8品が認定されている。とにかく前に進むこと、行動することが大事。熊本県においても、高い経済成長を遂げ、市場としての魅力が高まっている中国に熊本を売り込もうと上海事務所を開設した。攻めの町づくり、多くの町民の期待に応えるため、また、商品開発などに頑張っておられる方達の可能性を引き出すためにも、あさぎり町を売り込む仕掛けが必要と思ひ賛成。

反対討論

4坪のアンテナショップに三年間で三千数百万の投資をしてその効果があるのか。町がふるさと振興社に委託するとはいえ町と一心同体である。

町の店を出すということが、果たして最少の経費で最大の効果を上げることになるのか。大いに疑問だと思っている。町なかで聞いた町民の声に「商売人は絶対にこんな事はしない」と断言された。役場の仕組みの中でこういう事業をするのは反対。

賛成討論

試算などの甘さは私も感じている。今あさぎり

町内、若い人達の目が輝いているでしょう

か。基幹産業は農業である。農業を活性化してこそ、

商工業も活性化すると

思っている。これは確かに冒險かもしれないが、挑戦

しないことには道が開けない。やる前に悪いことばかり考えず、もつと町が輝くよう我々も考えるべきであり賛成。

反対討論

現地調査はやっているのか。ほとんどしていない。農林商工連携でこの販路を期待している声はあるがこのような狭いところで商売ができるのか。予算の提出と現地の説明会が逆ではないか。又、3年間と言わず5年、10年の長い目で見据えていく事が大事じゃないか。1年前に議決している3億円の地域活性化資金を使って本腰を入れたらいかがか。今回の補正予算には反対。



賛成多数で可決

住民協働による

環境整備資材等支給条例

この条例は地域住民の生活環境を整備し、住みよい町づくりを推進するため住民自ら施工する工事に町が資材、機械借り上げ料等を支給することにより、地域住民の和と絆を構築し、よりよい町づくりに資することを目的とするものです。

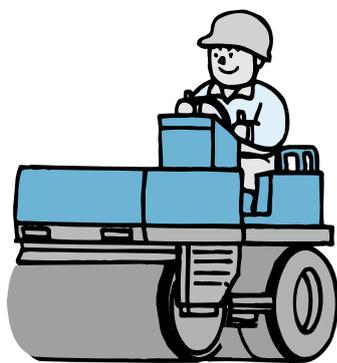
審議内容

問 地方自治法二二二条で新たな財源を必要とする条例は予算上の措置が適確に講ぜられる見込みが得られるまでの間は、議会に提出してはならないとあります。町長はどのように判断されておられるか。

答 地方公共団体の財政の健全化、関の自己規制だととらえている。今回の条例を先行して上程することについては不適法ではないという判断をしている。

問 昭和31年の実例でも予算措置が必要とはつきり書いてある。3月の議会に条例と予算を一緒に提出してもいいのではないか。

答 2月の区長会でこの条例案をご報告しご協力いただきましたという趣旨から、今回の再開時に上程したということでご理解いただきたい。



◆第4回定例議会（2月1日）表決一覧

議案名	議員名	岩水	永井	桑原	野中	奥田	豊永隆	愛甲	小見田	豊永喜	田原	皆越	椋山	浦本	溝口	久保田	宮原
監査委員の選任同意		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注1	○
住民協働による環境整備資材等支給条例		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
一般会計補正予算(第5号)		×	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	×

※注1：久保田議員は除斥

町村議会表彰を受賞

2月9日に、東京都内で開催された平成23年度全国町村議長会総会の席上で、あさざり町議会に対して、全国町村議長会、高橋正会長から表彰状が授与されました。

県議長会会長に代理で受け取っていたいた表彰状は、副賞の置時計と一緒に2月28日の球磨郡議員研修会の会場であさざり町議会に伝達されました。

受賞の理由は、「地域の振興発展及び住民福祉の向上のために議会の活性化に努めたことが他の範に値する」とのことです。

本年度は、県内で唯一、全国で30団体が受賞の栄に浴しましたが、近年、議員全員で取り組んできた議会改革が認められた結果だと思えます。各議員の努力と執行部のご理解に感謝いたします。

この受賞を期に、一段と議会本来の機能の強化と議員自身の資質の向上に努めて、町民の皆様の期待に沿える議会にますます成長するよう努力してまいります。

(橋爪)

口蹄疫対策を研修

えびの市役所訪問

2月9日、午前9時半より宮崎県えびの市役所にて、口蹄疫対策の取り組みの現地研修を行いました。

えびの市の総農家戸数2千982戸、農業就業人口3千321人、経営耕地面積2千941ha、農



口蹄疫対策の研修(えびの市役所)

業粗生産額、耕種部門36億円、畜産部門16.2億円
であります。

平成22年4月20日に都農町繁殖経営農家(16頭)で疑似患畜1例目が発生し、4月21日以降4月28日までに疑似患畜10例目が発生する。そこでえびの市口蹄疫対策本部会議を招集し、えびの市自衛防疫推進協議会を設置される。4月23日より消毒薬を配布し、4月25日人工授精業務停止及び国道268号線(高岡町)に消毒ポイントを設置、さらに市内で予定されていたイベントを中止される。

そのような中、えびの市において4月27日に1例目が発生し、翌日埋却場所の選定作業、掘削開始。4月29日殺処分開始し、277頭殺処分を完了、埋却完了。4月30日汚染物品(堆肥等)を埋却



作業開始、埋め戻し作業終了等の作業を実施される。

5月4日にはえびの市2例目発生。対応として母豚45頭、肥育豚2頭、育成豚2頭、子豚266頭の計315頭を殺処分し、5月10日には3例目発生。肥育牛18頭、関連農場11頭の計29頭、5月12日には4例目発生。繁殖牛26頭、育成牛1頭、子牛19頭の計46頭が殺処分され埋却された。

このように大惨事となったが、適切な防疫措置、消毒ポイントの設置によって終息出来た事は、「不幸中の幸」であったと思います。又、他県への伝染を防止された事も大きく評価されるべきであると思います。

えびの市役所職員の皆さん並びに関係機関の皆さまへ心からお見舞いを申し上げますと共に、あさぎり町議会の研修をお受け頂いた事に感謝を申し上げます。

(奥田)

監査委員の選任同意



久保田久男議員
あさぎり町須恵 174 番地

奥田勇一議員の死去に伴い、あさぎり町の監査委員に久保田久男議員を選任同意しました。

重要な案件を

可決しました

議会議長 橋爪和彦

2月1日、通年議会試行中の本会議を再開し、条例案1件と補正予算案を原案どおり可決しました。いずれも、町の将来に影響を与える可能性が高い重要な案件だと考えています。

この条例は、住民と町との協働で地域づくりを推進するために、住民自ら施工する工事に町が資材、機械借り上げ料等を支給するという内容です。町も財政が逼迫してきており、地域づくりは、これまでの何でも町任せから、住民と町とが力を合わせていく方向に変わらざるをえないという事情があります。そのため、昨年6月以来、建設経済常任委員会で条例案の議員提案を目指して協議を重ねて来ていたものです。条例に伴う規則の提案権が無い等の事情で、最終的に町長提案となりました。しかし、提案者のいかに関わらず、この「あさぎり町住民協働による環境整備資材等支給条例」が、協働の町づくりの第一歩となることを心から期待しています。

一般会計補正予算案は、福岡市で町の特産品を販売するアンテナショップの開設費630万円です。計画は、市場調査もしないまま、毎年大幅な客数や売り上げの増加を見込んでいるなど、11件の質疑が集中しました。討論では、厳しい財政事情下での事業の必要性に対する疑

問等3件の反対討論と事業への期待を示す2件の賛成討論があり、白熱した議論が戦わされました。採決の結果は、賛成11・反対5での可決でした。

未成熟な営業計画や町財政の悪化に対する懸念よりも、閉塞感漂う町の経済情勢打破の起爆剤としての期待や執行部への信頼が上回ったということだと思えます。

執行部に対しては、本会議で多くの議員から指摘された問題を再検証して計画の欠陥を解消し、当初の目的を完遂されるよう求めるとともに、議会としては、常に状況の推移を注意深く見守って、本来のチェック機能としての役目を果たしていくことが義務だと考えています。



アンテナショップ予定地で執行部より説明を受ける

編集後記

3月に入りひな祭りも間近ですが、今年は例年にならない寒さで2月3日には、最低気温が零下10度という記録で、ハウスの中で成長しているメロンも一部では凍霜害により全滅した農家もあるということです。

今回、12月定例議会からの継続議案ということでの結果を知らせる増刊号を発行します。アンテナショップ出店には一抹の不安はありますが、あさぎり町の外貨戦略です。成功を祈るばかりです。

(皆越)

編集・発行責任者

議長 橋爪和彦

広報調査特別委員会

委員長 愛甲利孝
副委員長 皆越てる子
委員 皆越てる子
委員 奥山保
委員 桑原公人
委員 永井英治

発行／あさぎり町議会 編集／議会広報調査特別委員会
〒868-0422 熊本県球磨郡あさぎり町上北1855番地
TEL(0966)47-0312・FAX(0966)47-0265
E-mail syoki-gikai@town.asagiri.lg.jp